

報告書

平成24年度 「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究
地域コーディネーターを軸とした地域教育プラットフォーム構築プロジェクト

平成25年3月

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

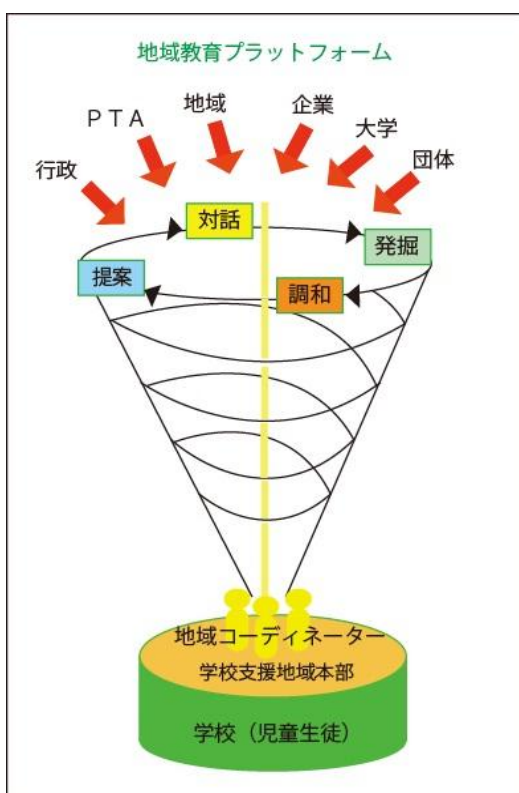
もくじ

もくじ	1
1 めざす姿	2
2 実施目標	2
3 実施のステップ	3
4 実施内容	
【1】地域コーディネーター育成プログラムの開発	4
【2】杉並区立小中学校支援本部地域コーディネーター研修においての実証	6
【3】地域コーディネーター育成ガイドラインの作成	21
【4】地域コーディネーター育成教材の開発	27
5 地域教育プラットフォーム構築に向けて	29
6 まとめと今後に向けて	30

1 めざす姿

子どもたちを取り巻く状況が多様化する社会にあって、子どもたちの育成は、学校の力だけではなく、学校・家庭・地域の連携をもとに行われる必要である。また、その連携を推進、持続させていくためには、コーディネート機能が必要なる。学校を取り巻く地域の人々による「学校支援地域本部」は、まさにその機能の中心にあり、そこで実践活動を行う「地域コーディネーター」は、地域を巻き込む「軸」となる存在である。

地域・企業団体・PTA・行政・大学等、様々な地域の教育支援機関・教育支援人材を巻き込み、そこに地域教育プラットフォームを構築することにより、持続可能な連携体制をつくる。



2 実施目標

地域コーディネーターが軸となり、地域の教育ネットワーク化を図り、「地域教育プラットフォーム」を構築していくためには、地域コーディネーターのスキルアップが必要である。そのためには「育成研修」を実施する必要がある。育成研修実施にあたっては、その内容を示した「ガイドライン」・「教材」があることにより、どのような地域で実施しても、研修を一定の水準に保つことができる。本プロジェクトでは、それらの開発を行うことで、全国各地へのノウハウ移転を行う。

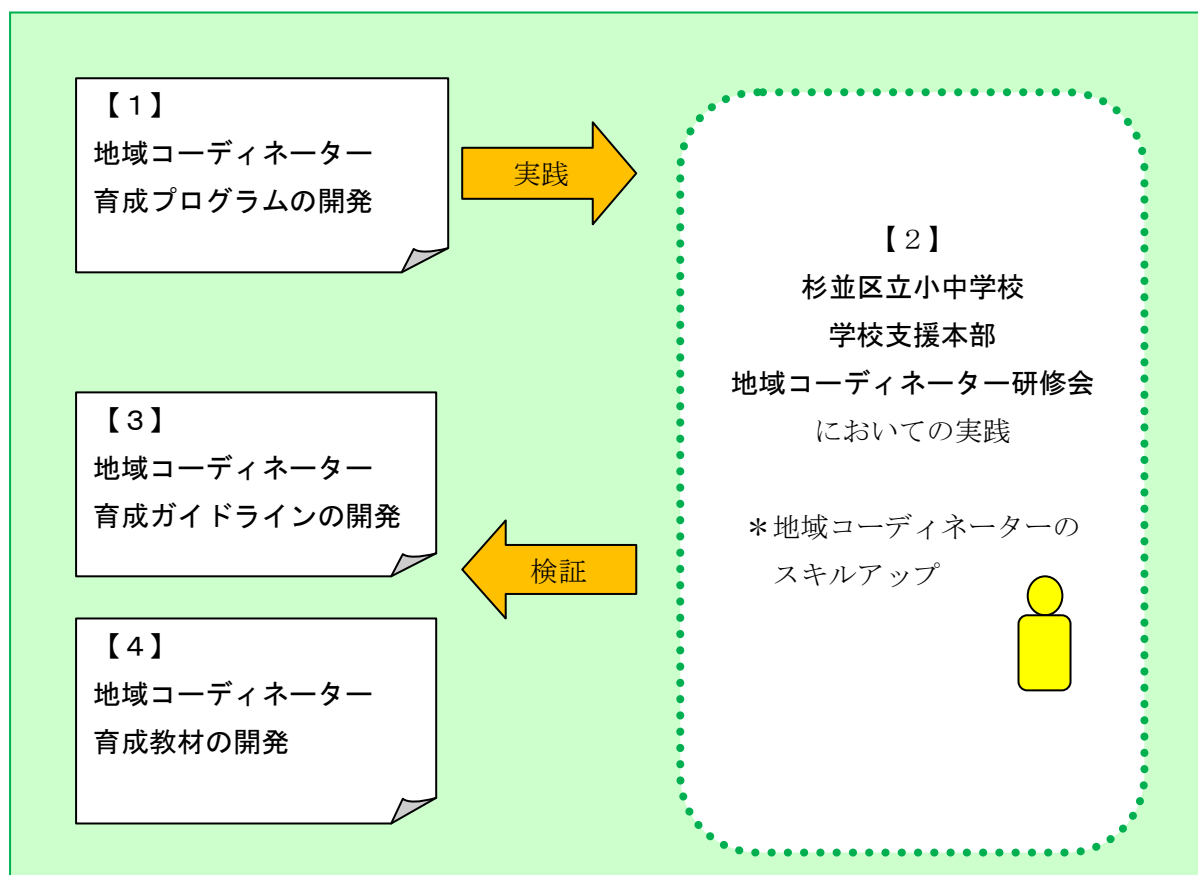
3 実施のステップ

まず、育成研修のためのプログラムを開発し、その実証を「杉並区立小中学校 学校支援本部地域コーディネーター研修会」の場で行う。

それにより、杉並区における地域コーディネーターのスキルアップを図るための支援をすると共に、成果と課題をまとめ、「地域コーディネーター育成ガイドライン」にまとめる。

さらにガイドラインに基づき、育成のために必要な教材を開発する。

以上のようなステップにより進めた。



また、本実証研究においては、以下のとおり、有識者による「研究開発委員会」を設置し、内容検討や助言をいただいた。
(検討内容等は[委員会資料](#)参照)

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 香月よう子 | きてきて先生プロジェクト代表 |
| 小寺 良介 | 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会事務局長 |
| 清水 敏治 | 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課学校支援係主任 |
| 中曽根 聡 | 杉並区教育委員会事務局学校支援課社会教育主事 |
| 伴野 博美 | 杉並区学校支援本部運営委員会委員 |
| 松倉 由紀 | 株式会社ソシオ エンジン・アソシエイツ |
| 棕下 聡美 | 特定非営利活動法人世田谷まなびばネット理事長 |

4 実施内容

【1】地域コーディネーター育成プログラムの開発

①基礎的知識・技能の習得にあたっての仮説

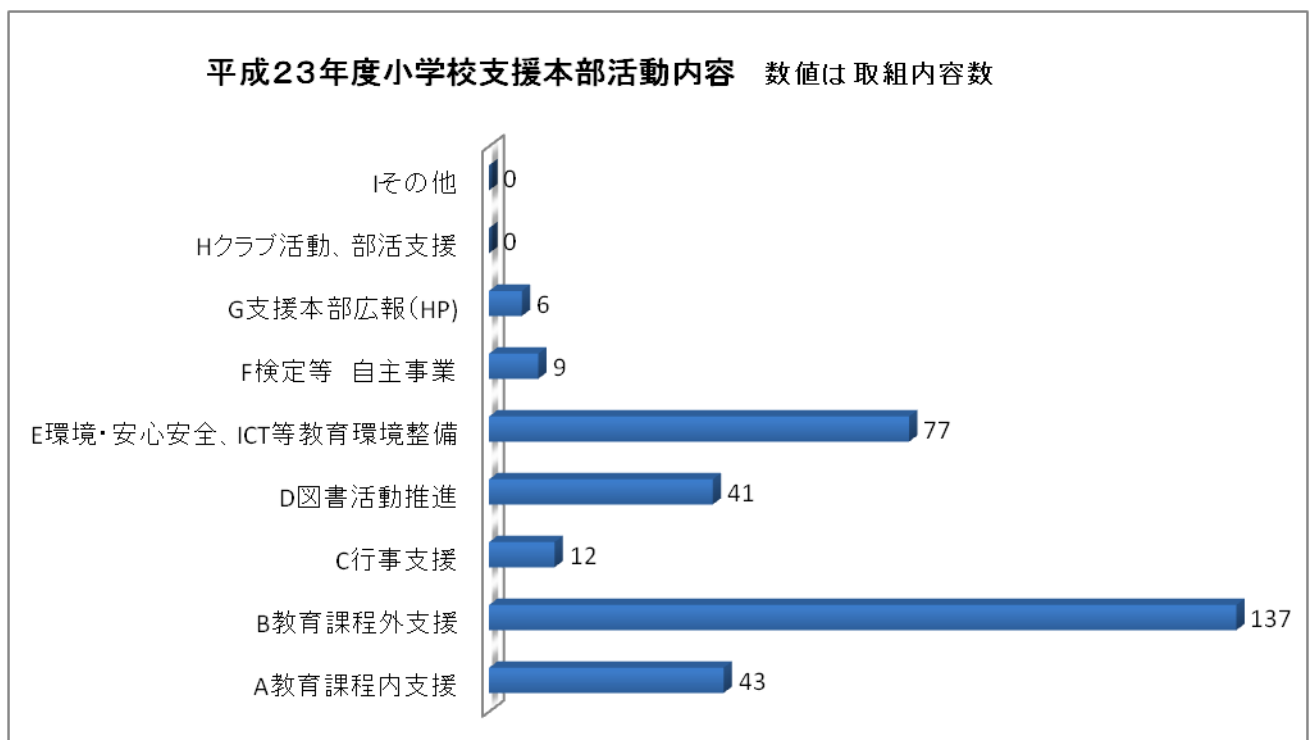
杉並区における学校支援地域本部の設置は、平成18年度から順次行われ、平成22年度で全小中学校（小学校40校・中学校21校・小中合同2地域）の設置が終了している。

この研修プログラムを開発するにあたっては、地域コーディネーターに必要な基礎的知識・技能の習得を目指し、一定のスキルをつけるために各地の地域コーディネーターは何を求めているのかという視点で、内容仮説を以下のように考えた。

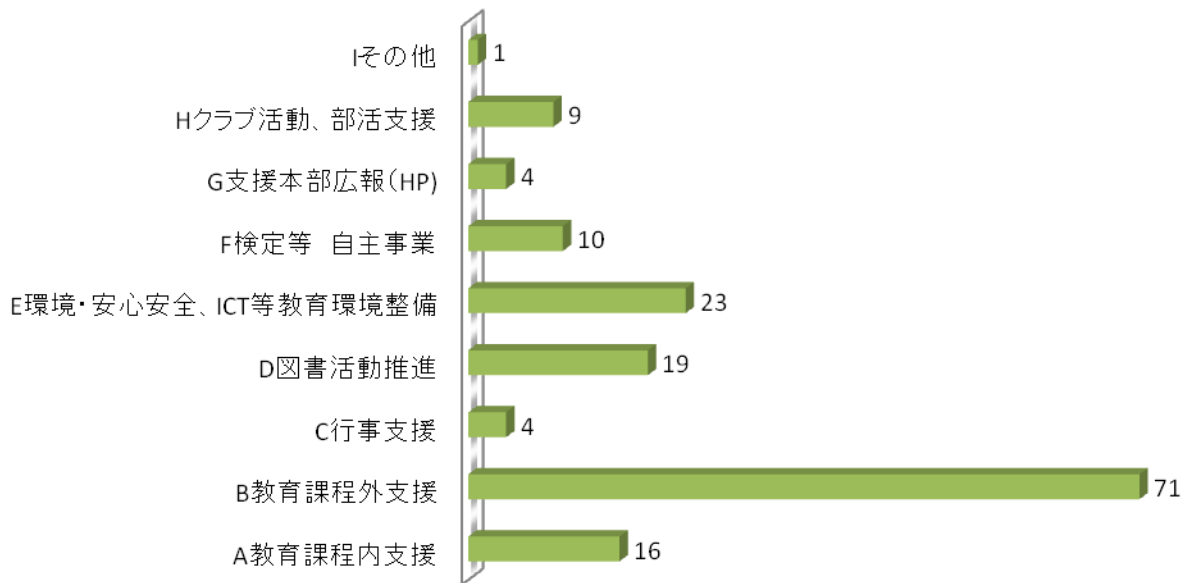
- *地域コーディネーターとして自分がすべきことは何かを知りたい。
- *他の学校支援地域本部が何をしているのかを聞いてみたい。
- *具体的な授業プログラムの内容を理解したい。
- *その授業プログラムの開発手法を理解したい。
- *先生方とのコミュニケーションを取る方法を知りたい。
- *学校や児童生徒の現状について理解したい。
- *地域ネットワークを作る方法を知りたい。
- *様々な人とのつながりを持つ方法を理解したい。
- *地域コーディネーターとしてスキルアップしたい。

②学校支援活動の現状把握

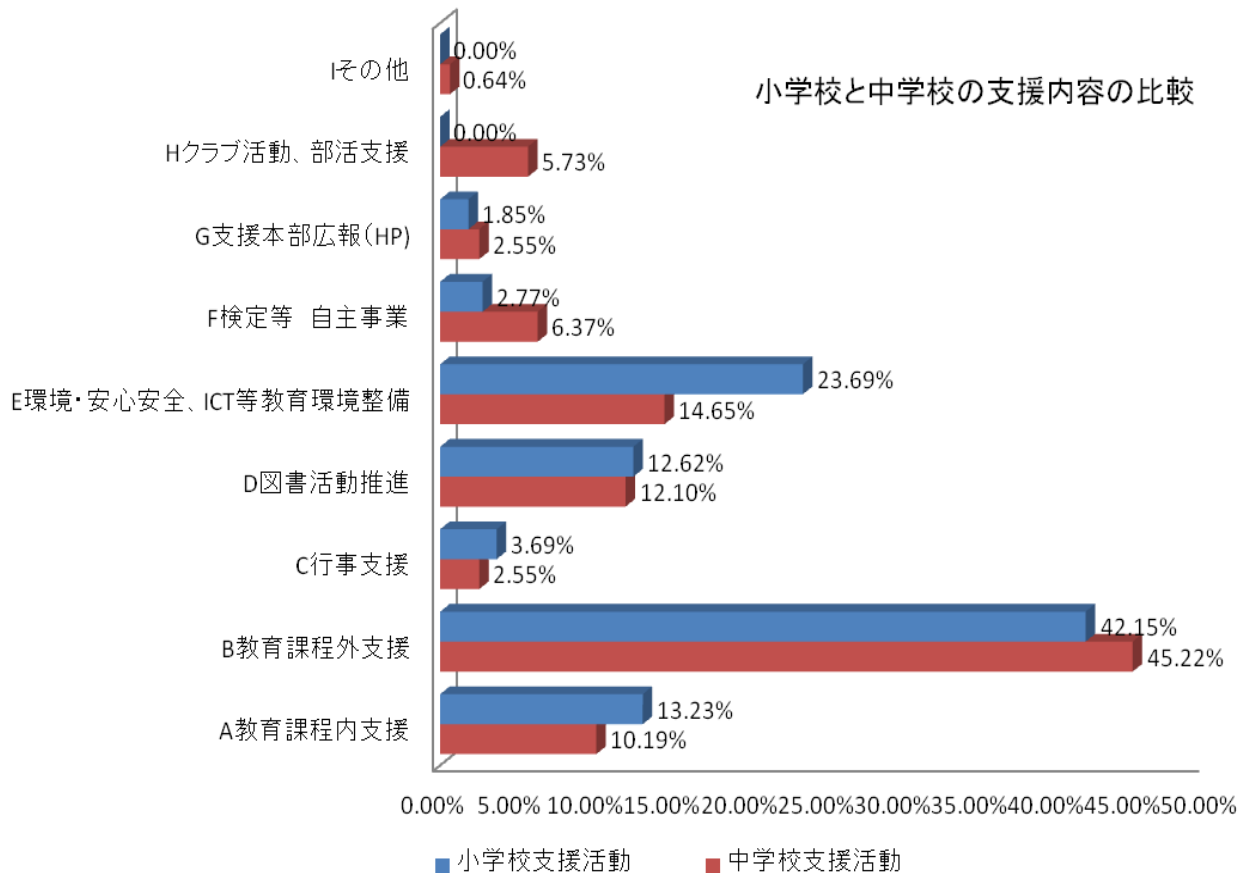
また、学校支援の状況は平成23年度報告による学校支援の現状は以下の通りであった。



平成23年度中学校支援本部活動内容 数値は取組内容数



小学校と中学校の支援内容の比較



杉並区では、学校支援地域本部の活動が、平成23年度末の報告内容から見ると、既に6年間の実績があるにもかかわらず、小中学校ともに教育課程外支援への取組や、小学校の環境・安心安全・ICT等教育環境整備活動の割合が高くなっている。

そうした活動もちろん学校支援活動としては必要なものであるが、本来目標としたい教育課程内支援については、小中学校ともに割合は決して高くない。

杉並区では、なぜ教育課程内支援に踏み込めないのか、その課題を考え、教育課程内支援への実践活動を進めたいとの希望を持っている。

そこで、この地域コーディネーター研修会においては、「教育課程内支援ができるコーディネーターの育成」を目指した。

【2】杉並区立小中学校支援本部地域コーディネーター研修会の実証

①コーディネーター育成研修会の内容

杉並区は、5年間と、長期にわたる学校支援地域本部の設置期間であったため、制度導入初期に活動を開始している学校支援地域本部と、後発の本部では、取組内容や地域コーディネーターのスキルに幅があった。そのため、杉並区での研修は、以下のようにA・Bコース2部に分けて、「教育課程内支援ができるコーディネーターの育成」研修として実施した。

杉並区立小中学校支援本部地域コーディネーター研修会内容

Aコース 経験のあるコーディネーター対象		Bコース 活動初期のコーディネーター対象	
1	オリエンテーション	1	オリエンテーション
2	学校授業の成り立ち	2	学校支援の必要性
3	地域ネットワークづくり	3	事例研究
4	プログラム開発	4	地域ネットワークづくり
5	コーディネーターに必要な力	5	プログラム開発

杉並区立小学校・中学校 学校支援本部地域コーディネーター研修会
周知のチラシは以下の通り

A・Bいずれかのコースをお選びください（両コースの参加も可能です）

Aコース・・・比較的経験があるコーディネーターを対象とした進行となります

Bコース・・・推進初期にあるコーディネーターを対象とした進行となります

会場：AB コース共通で行う2回は「杉並区役所中棟 6階第4会議室」・その他は「産業商工会館 3階講堂」

Aコース内容

6月5日（火）10：00～12：30 会場：杉並区役所中棟 6階第4会議室

オリエンテーション

学校と地域の在り方について考える・・・杉並区教育委員会教育ビジョン2012 策定の経緯
現代の子どもたちの課題と、解決方法について考える

分区連絡学習会



9月4日（火）10：00～12：30
会場：産業商工会館 3階講堂
テーマ：学校授業の成り立ち

学校教育支援に当り必要な、学習指導要領・総合的な学習の時間・教科等に対する理解を深める。



11月6日（火）10：00～12：30 会場：杉並区役所中棟 6階第4会議室

テーマ：地域ネットワークづくり

学校の依頼に応えるために必要な地域の教育資源（教育支援をしてくださる方々・教育支援機関）についての理解を深める。

2月5日（火）10：00～12：30
会場：産業商工会館 3階講堂
テーマ：プログラム開発

学校教育プログラムのねらいを知り、実際のプログラム開発を体験する。

Bコース内容

7月4日（水）10：00～12：30
会場：産業商工会館 3階講堂
テーマ：学校支援の必要性

児童生徒が学習意欲を向上させ、勉強する意味を見出すために必要なことは何かを考え、それを支援する学校支援本部の役割を知る。

10月17日（水）10：00～12：30
会場：杉並区役所中棟 6階第4会議室
テーマ：事例研究

学校教育支援の具体的な事例を学ぶ。

12月5日（水）10：00～12：30
会場：セシオン杉並 3階8～10集会室
テーマ：プログラム開発

プログラム開発に必要な「3つの力」について考え、簡易プログラム開発を体験する。

分区連絡学習会

3月5日（火）10：00～12：30
会場：産業商工会館 3階講堂
テーマ：コーディネーターに必要な力
コーディネーターに必要な、コミュニケーション力とプロジェクトマネジメント力について考え実感する。

*各回 2時間 30 分の研修です
*研修は原則 10 時間以上の参加をもって修了とさせていただきます。
*修了された方には「修了証」をお渡しします。

②プログラム内容の詳細と、参加者の理解度

実施したプログラム内容と、参加者による振り返りシートにおける効果測定「本日の研修理解度『理解度5（理解度高）～理解度1（理解度低）』」の結果を示す。

Aコース	Bコース
<p>1 【オリエンテーション】（A・Bコース合同）</p> <p>学校教育課程の支援にあたっては、学校や地域が抱える課題を認識し、その解決をどのような方法で行うかということが前提となる。この研修においては、まず学校と地域の連携の在り方について考えるとともに、現代の子どもたちが抱える課題と解決方法について地域コーディネーター同士の意見交換をもとに認識を深めていく。</p> <p>講話： 「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」杉並区教育委員会 教育長 井出隆安</p> <p>ワークショップ： ワールドカフェ「最近の若者（児童生徒）がもつ課題とは、その解決のために私ができること」</p>	
<p>2 【学校授業の成り立ち】</p> <p>学校支援をするためには、教育における現状を理解する必要がある。杉並区の児童の学力の現状、メンタルの現状等を踏まえ、支援本部が児童の発達段階と現状をいかに把握し、支援に活かすべきなのかを考える。</p> <p>また、学校授業がどのように編成され、何を基準として進められているのかを理解し、コーディネーターとして支援するうえで留意すべきことを知る。さらに、特別支援教育への認識を深め、特別に配慮を要する児童生徒への理解向上を促す。</p> <p>講話： 「コーディネーターが学校教育課程支援に関わる意味」 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵</p> <p>講話： 「学習指導用要領とは」 「児童の発達段階と現状」杉並区教育委員会</p>	<p>2 【学校支援の必要性】</p> <p>学校支援をするためには、教育における現状を理解する必要がある。杉並区の児童の学力の現状、メンタルの現状等を踏まえ、支援本部が児童の発達段階と現状をいかに把握し、支援に活かすべきなのかを考える。</p> <p>また、学校が抱える課題や教員の現状を知り、学校とのコミュニケーションの取り方を考える。</p> <p>講話： 「児童の発達段階と現状」杉並区教育委員会 済美教育センター 統括指導主事 出町桜一郎</p> <p>講話： 「コーディネーターが学校教育課程支援に関わる意味」 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵</p> <p>講話： 「学校との関わり方」杉並区立和田小学校 校長 福田晴一</p>

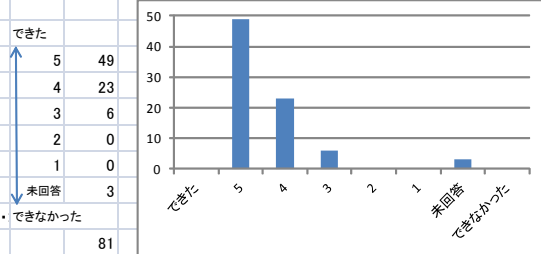
済美教育センター 統括指導主事 出町桜一郎

講話：

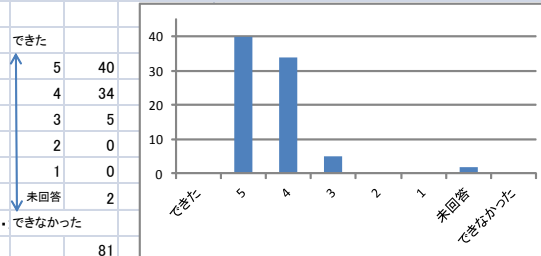
「特別支援教育への対応」杉並区教育委員会
済美教育センター指導主事 田村喜代美

1. 本日の研修について理解度

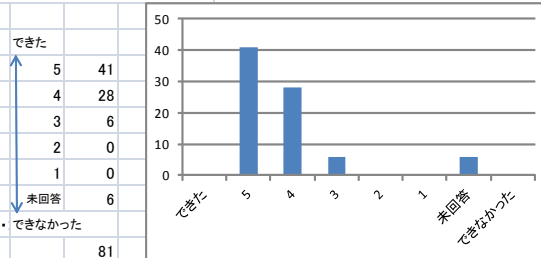
・コーディネーターが学校教育課程支援に関わる意味



・学校指導要領・児童生徒の発達段階と現状

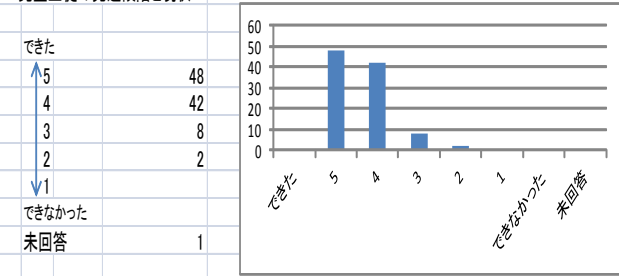


・特別支援教育への対応

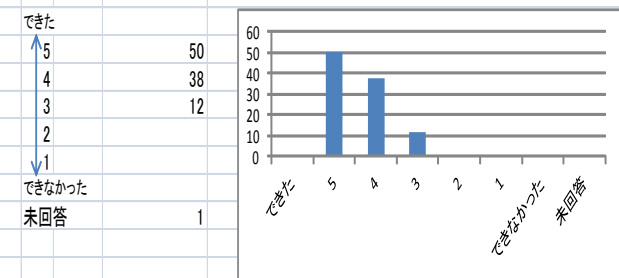


1. 本日の研修について理解度

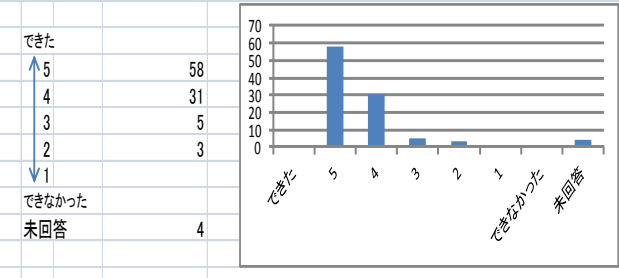
・児童生徒の発達段階と現状



・コーディネーターが学校教育家庭支援に関わる意味



・学校との関わり方



3 【事例研究】

地域コーディネーターが関わる様々な事例を知り、教育課程支援を進める方法や具体的な手法、学校とのコミュニケーションづくりのアイデアを理解する。さらに、授業実施までにどのようなことに留意すべきかについての認識も深める。

事例発表：

「小学校事例」

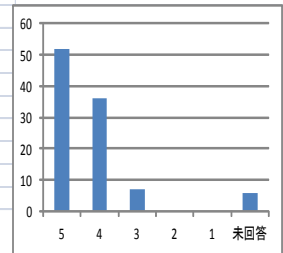
- ①元学校教育コーディネーター 現杉並区立四宮小学校地域コーディネーター 山田由理子
- ②元学校教育コーディネーター 現杉並区立桃井第四小学校地域コーディネーター 谷原博子

「中学校事例」

- ①元学校教育コーディネーター 特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー代表理事 手塚佳代子
- ②元学校教育コーディネーター 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵

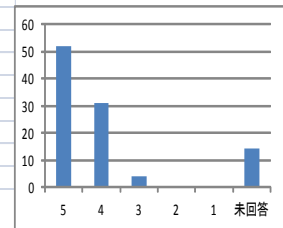
1. 本日の研修について理解度
・事例研究(小学校)

できた	5	52
	4	36
	3	7
	2	0
できなかった	1	0
	未回答	6



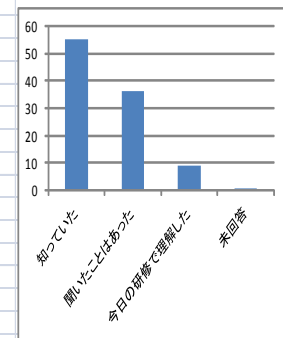
・事例発表(中学校)

できた	5	52
	4	31
	3	4
	2	0
できなかった	1	0
	未回答	14



・本日の研 特色ある教育活動についてお答えください

知っていた	55
聞いたことはあった	36
今日の研修で理解した	9
未回答	1



3. 4 【地域ネットワークづくり】（A・Bコース合同）

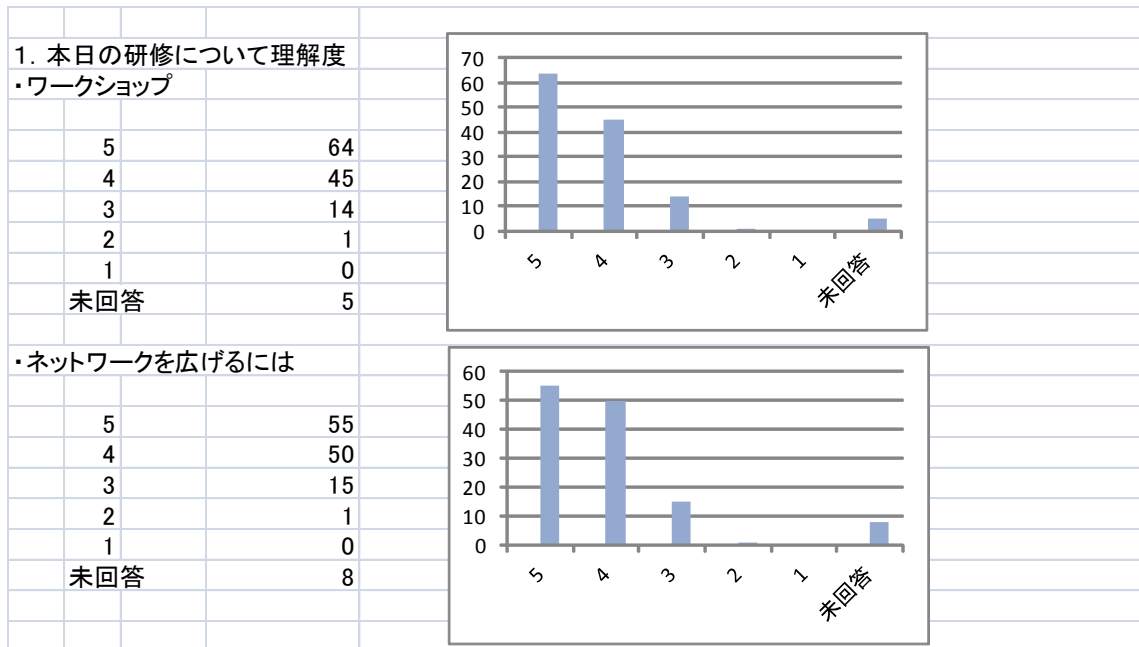
地域コーディネーターが、地域の教育資源と学校とをつなぐ役割を果たしながら、学校教育課程支援を行うためには、日頃から地域情報を収集し、地域ネットワークづくりを意識していくことが求められる。

自分の周りの地域資源に気づくとともに、それらをつないでいくためには何が必要なのかを考え、さらにどのような授業において、地域資源の協力を求められるのかを整理していくことを目的とする。

ワークショップ：

「身の回りのネットワークに気づこう」

「身の回りにある学校情報を集めよう」小学校・中学校に分け、テーマに沿った学習への教育資源をどこから求めるかを考える。



4 【プログラム開発】

前回の研修会において、地域コーディネーターが、地域の教育資源と学校とをつなぐ役割を果たしながら、学校教育課程支援を行うためには、日頃から地域情報を収集し、地域ネットワークづくりを意識していくことが求められることを学んだ。今回はこれを活かして、実際のプログラムを作成する手順についての理解を深める。また、プログラム実施（ゲスト講師を迎えた授業実施）を行うために、どのような人たち

5 【プログラム開発】

前回の研修会において、地域コーディネーターが、地域の教育資源と学校とをつなぐ役割を果たしながら、学校教育課程支援を行うためには、日頃から地域情報を収集し、地域ネットワークづくりを意識していくことが求められることを学んだ。今回はこれを活かして、実際のプログラムを作成する手順についての理解を深める。また、プログラム実施（ゲスト講師を迎えた授業実施）を行うために、どのような人たち

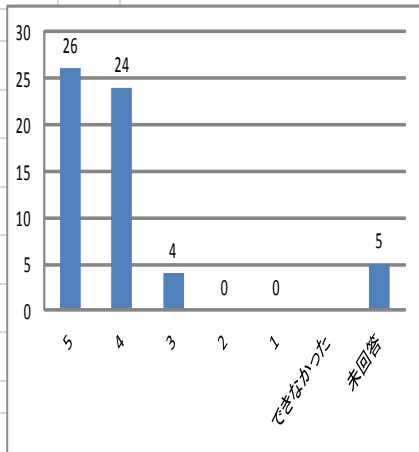
とどのような調整を行い、どのような準備が必要となるのかについても学ぶ。

今回の参加者はAコースということで、活動経験のあるコーディネーター対象であるため、体系的な授業においてのプログラムを考える。

1. 本日の研修について理解度

・プログラム開発

できた		
↑	5	26
	4	24
	3	4
	2	0
	1	0
↓	1	0
できなかった		
未回答	5	



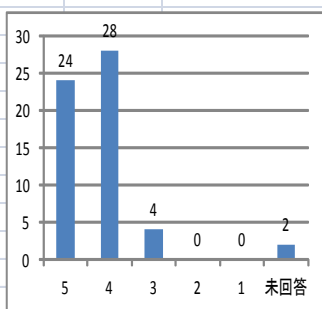
5 【コーディネーターに必要な力】

コーディネーターが授業支援活動を行っていくために必要なのは「プロジェクトマネジメント」である。プロジェクトをマネジメントしていくうえで必要なことについての理解を深め、実践するための手法を学ぶ。

1. 本日の研修について理解度

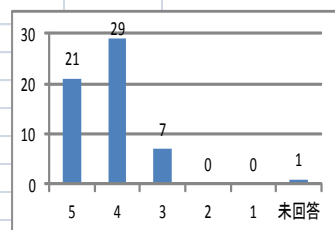
・コミュニケーション力とは

できた		
↑	5	24
	4	28
	3	4
	2	0
	1	0
↓	1	0
未回答	2	
できなかった		



・プロジェクトマネジメント

できた		
↑	5	21
	4	29
	3	7
	2	0
	1	0
↓	1	0
未回答	1	
できなかった		



とどのような調整を行い、どのような準備が必要となるのかについても学ぶ。

今回の参加者はBコースということで、活動初期のコーディネーター対象であるため、単発的な授業においてのプログラムを考える。

ワークショップ：

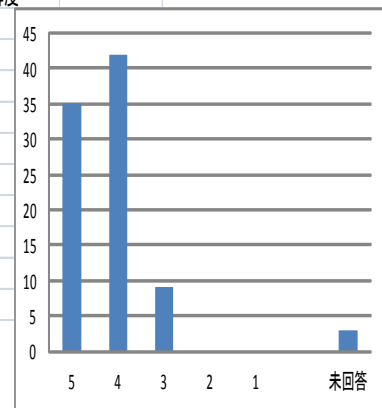
「地域の教育資源を活用した教育課程内学習プログラムを開発しよう」

「プログラム実施までにすべきことを考えよう」

1. 本日の研修について理解度

・プログラム開発

できた		
↑	5	35
	4	42
	3	9
	2	0
	1	0
↓	1	0
できなかった		
未回答	3	



全回修了時の「ふりかえりアンケート」の結果は以下の通りであった。

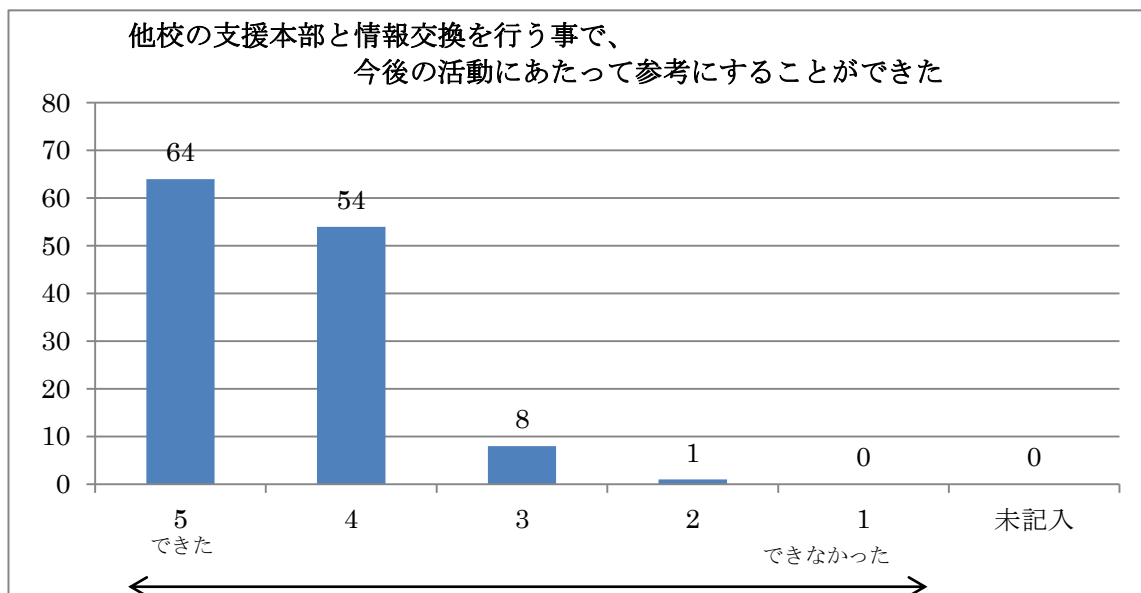
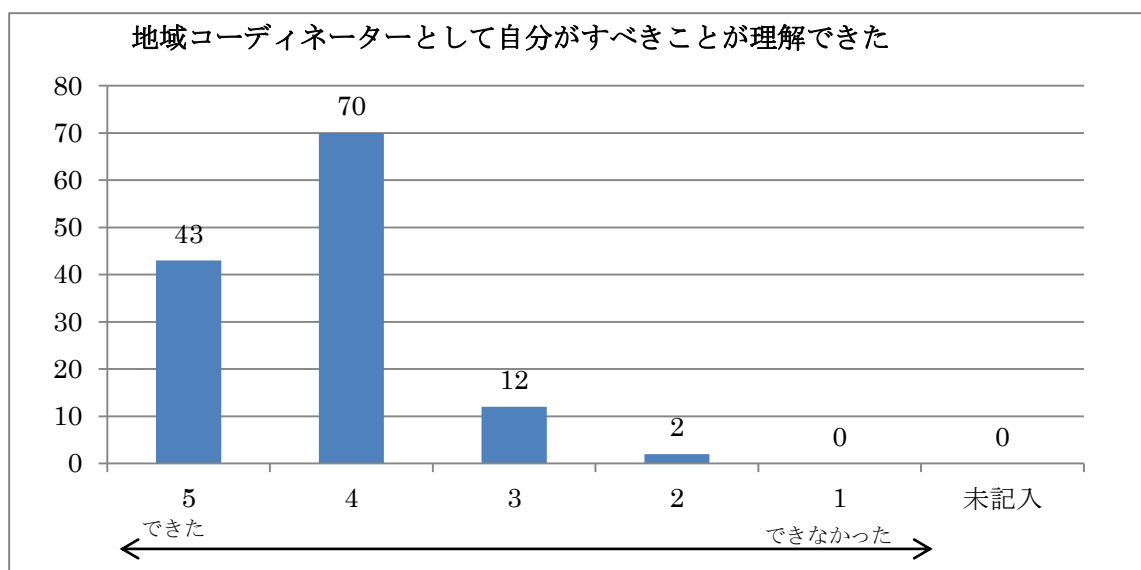
最終修了者数 149名

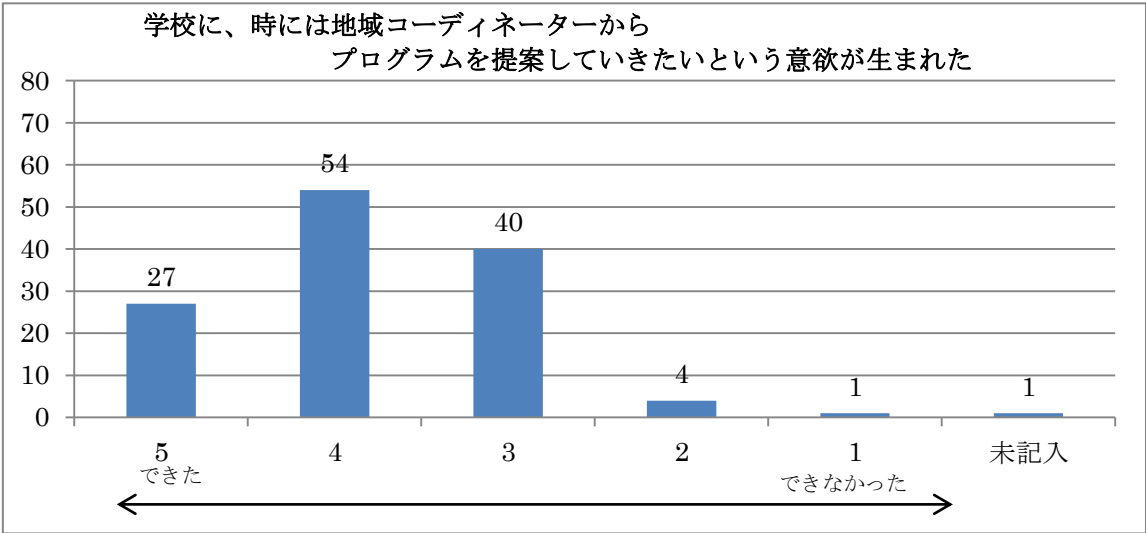
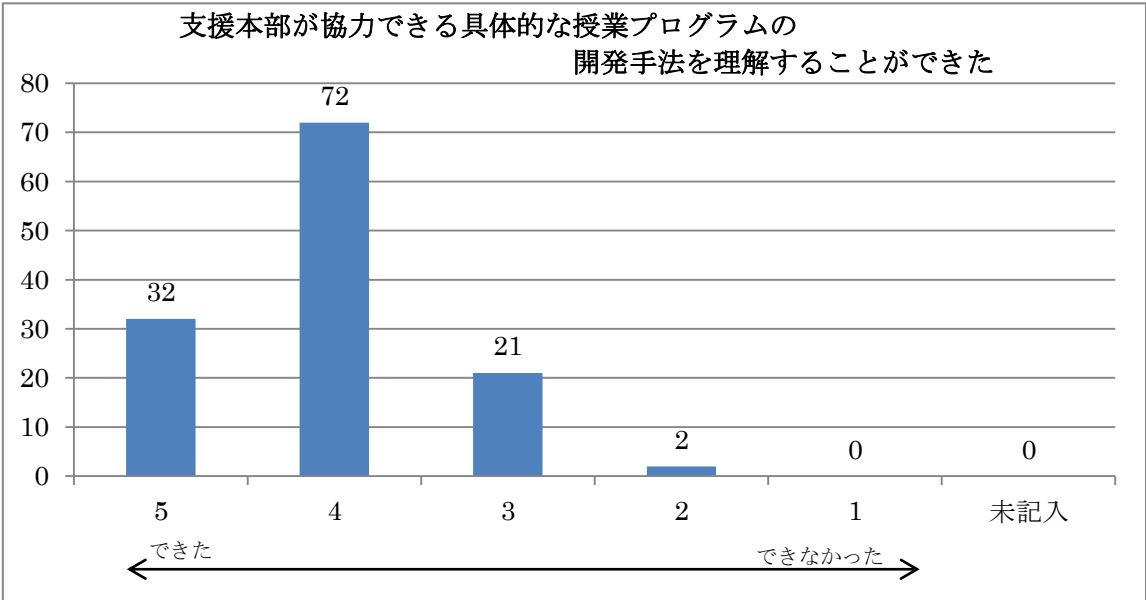
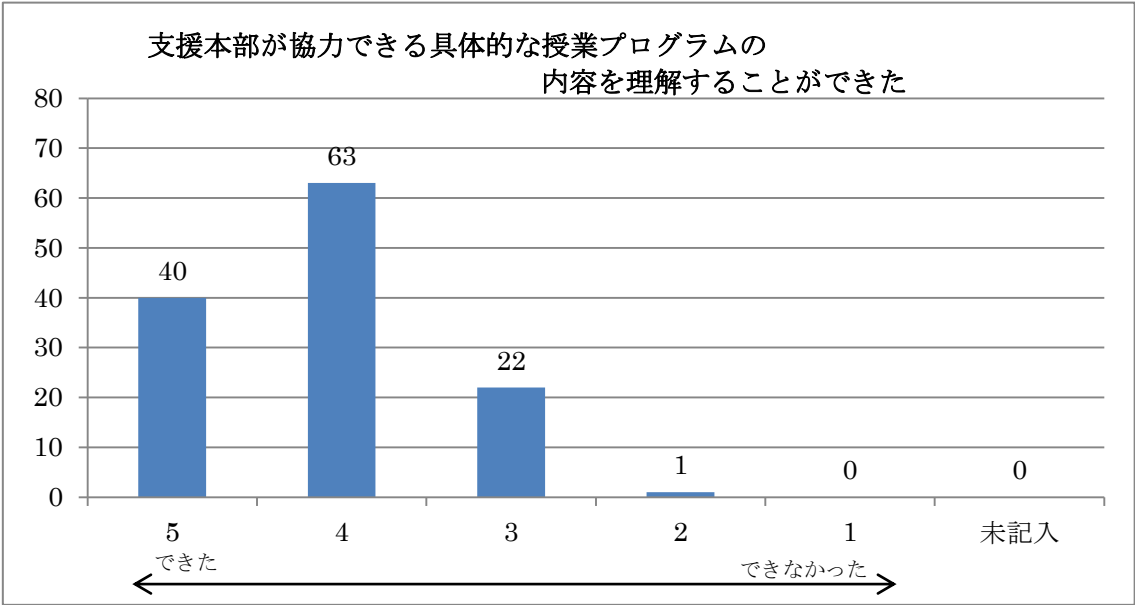
アンケート回答者数 127名

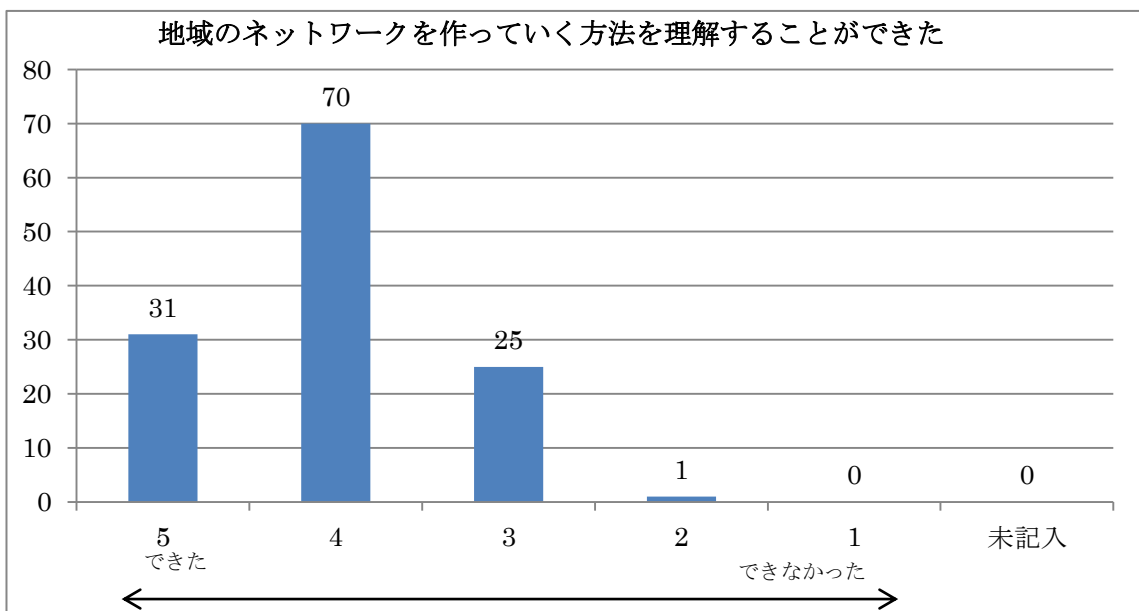
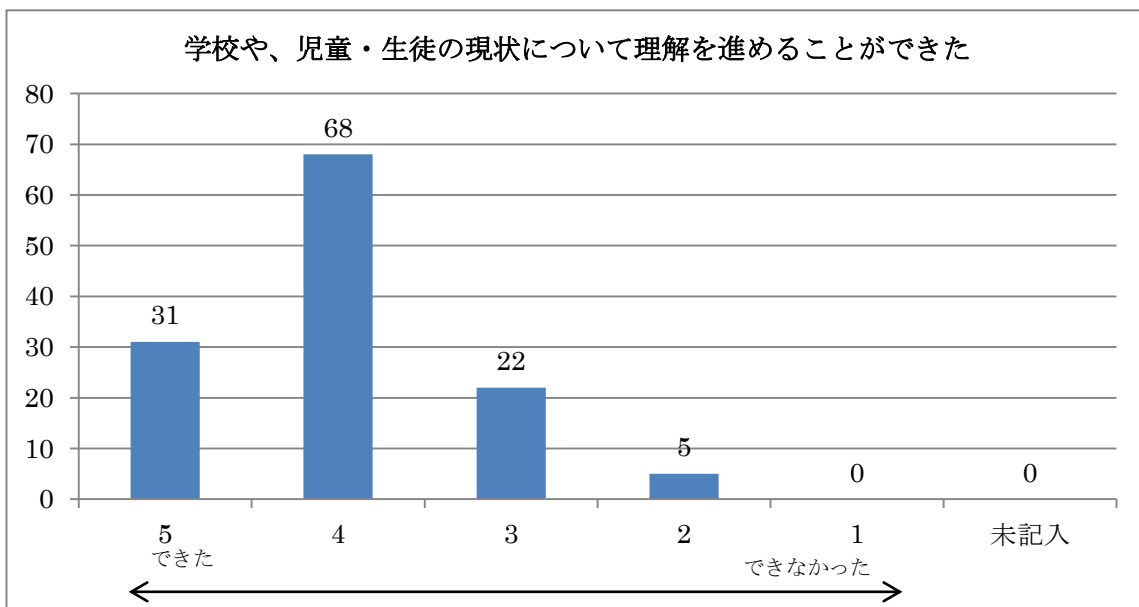
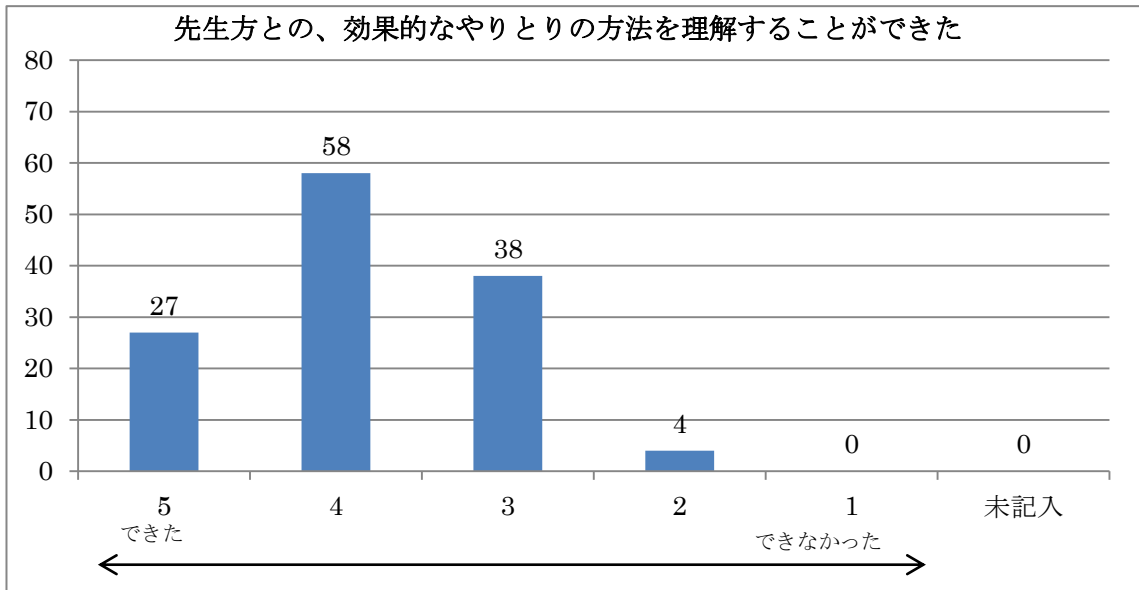
アンケート結果から、全体的に、理解度5・4が多く、研修内容が効果的に理解されている。

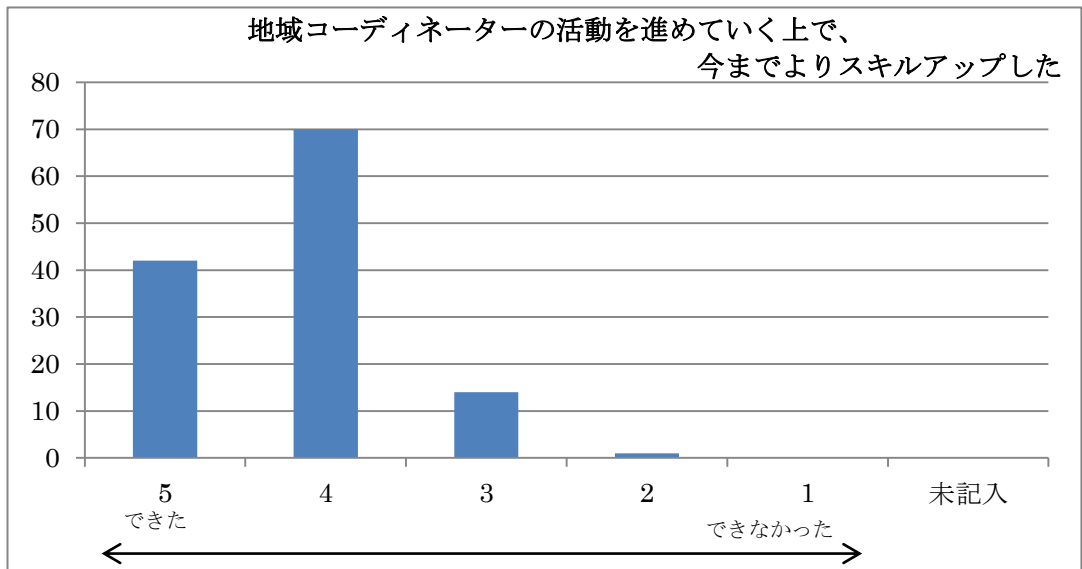
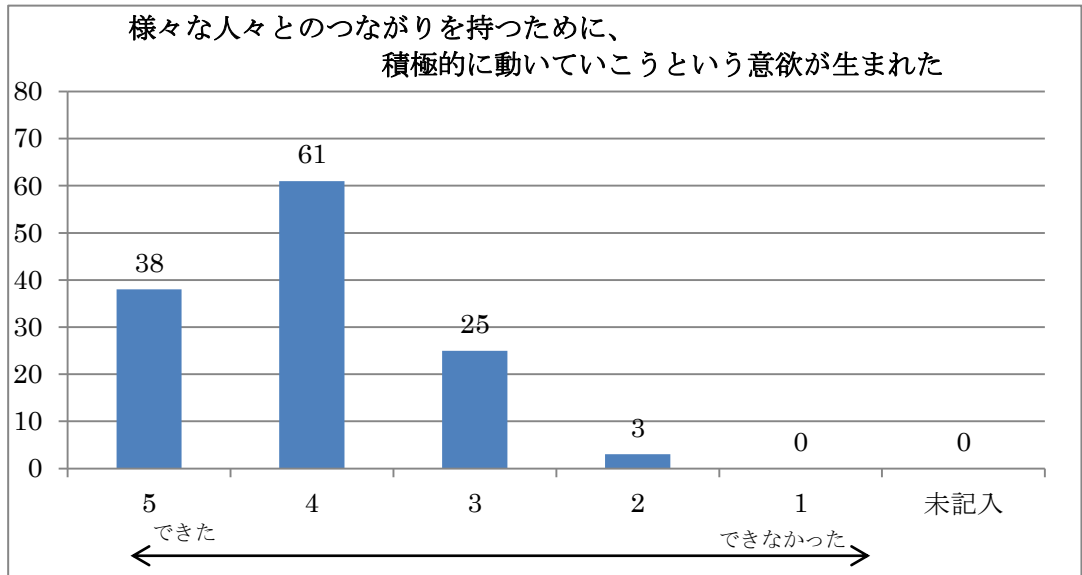
とくに、地域コーディネーターとして自分が何をすべきか、また今後の活動推進の方向性、授業プログラムの開発手順等の理解等については、かなりの理解が進んでいる。

一方、まだ少し不安がのこる項目としては、先生方との対応方法やプログラムを提供する意欲の部分である。本研修の枠外で、主幹教諭と地域コーディネーターとの情報交換会を実施し、反響は高く効果的であったが、今後も引き続き教員とのコミュニケーションを円滑にするための工夫をしていく必要があると考えられる。





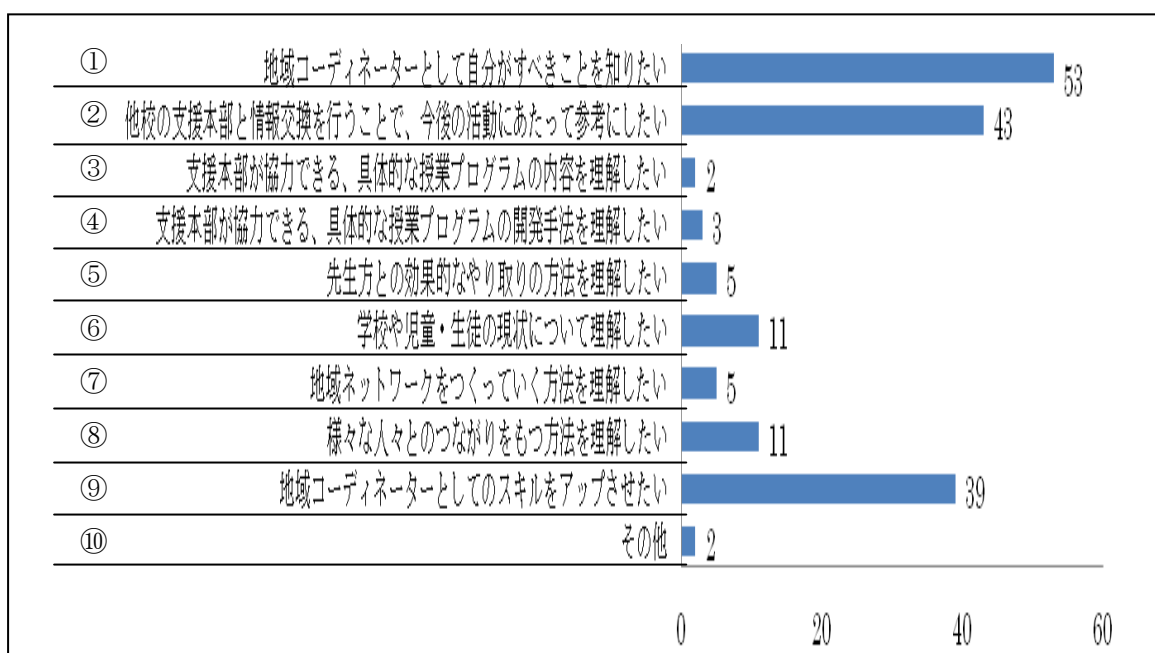




③実施過程において分かってきたこと

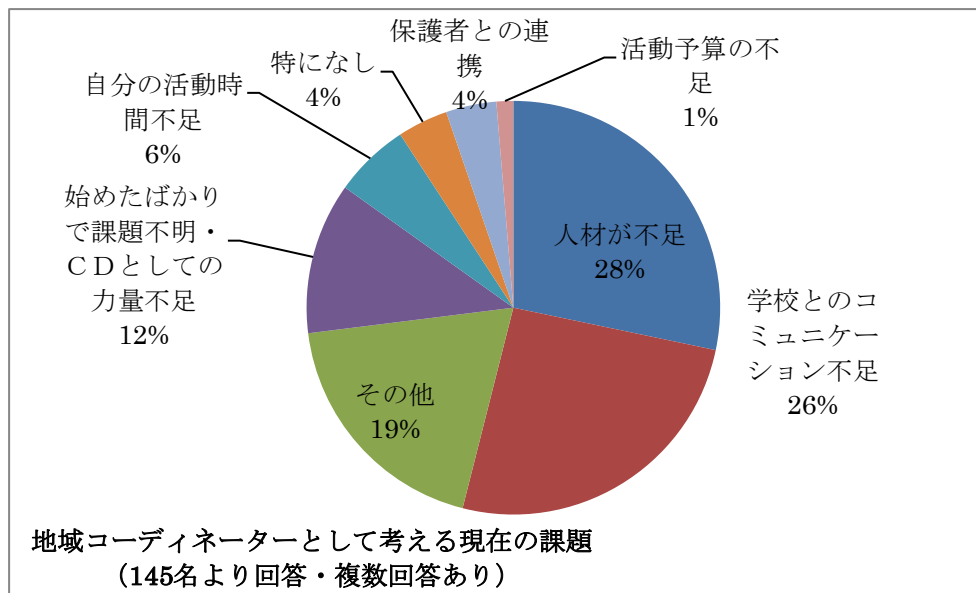
開発した育成プログラムを実施し、その定量的効果測定結果から見ると、理解度5・4（理解度高）への回答が86.7%という数値となった。つまり、このプログラムにおいての研修内容は、参加者の自己評価による理解度は高かったということが示された。

一方、研修第1日目にとったアンケート「地域コーディネーター研修会に期待することは何ですか」（※グラフ1）を見ると、研修内容としてプログラム化していた①・③・④・⑥・⑦・⑧・⑨以外にも、②他の学校地域支援本部との情報交換についてのニーズが高いことが分かった。②については、研修を講義型ばかりの内容にするのではなく、ワークショップ等を取り入れた参加型にすることにより、ある程度の情報共有が行えるのではないかとすることを想定していたのだが、さらに各学校支援地域本部の活動を深く知りたいという声を受ける必要があるのではないかとということで、「他校支援地域本部との情報共有の場の設定」が必要であると考えた。



※グラフ1：地域コーディネーター研修会に期待することは何ですか。
杉並区立小中学校支援本部地域コーディネーター研修会第1日目のアンケート内容より

また、同じく「地域コーディネーターとして考える現在の課題」（※グラフ2）を見ると、活動人材の不足に次いで、「学校とのコミュニケーション不足」を課題として挙げる地域コーディネーターが、全体の約4分の1も居ることが分かった。



※グラフ2：地域コーディネーターとして考える現在の課題は何ですか。
 杉並区立小中学校支援本部地域コーディネーター研修会第1日目のアンケート内容より

従って、「他校学校支援地域本部との情報共有の場の設定」以外にも、「学校と学校支援地域本部とのコミュニケーションの場の設定」が必要であることが示された。

但しこれらは、研修会という位置付けのものではなく、「情報交換会」や「交流会」としての役割を持つものであり、研修会とは別の場面での設定を行うことが妥当であろうと考えた。

④情報交換会の内容検討

杉並区においては、当初から「分区分別連絡学習会」という位置づけで、区内を4つの分区分けにけた連絡学習会を行う予定であった。内容については研修会で取り扱えない内容の追加や事務手続き説明会等の実施を想定していたが、前述③のアンケート結果を反映させるべく、2度の分区分別連絡学習会の内容を、「学校支援地域本部同士の情報交換会」「学校と学校支援地域本部との情報交換会」というスタイルを取ることにした。

このことにより、他校の学校支援地域本部がどのような取組をしているのかということを理解し合うことができたと共に、課題を共有し、その解決方法を相互に考えていくことができた。

また、教員（主に主幹教員）と学校支援地域本部との情報交換会は、教員の意識改革に大いに役立った。学校とのコミュニケーションに悩む学校支援地域本部が多かったが、参加した教員が、他校の取組事例のみならず、学校支援地域本部で活動している人たちの気持ちを聞くことができ、学校支援地域本部との対応を管理職に任せきりだった状況を変えていくことが必要だというような声が多く寄せられた。

学校支援地域本部同士の情報交換会の効果～参加者からの振り返りシートより～

- ◇ 地域コーディネーター同士の連携がとても有意義であることが分かりました。また、お互いに苦労話などを交えて情報交換することはとても楽しい。同じ区内で子どもたちのために頑張っている仲間がたくさんいることがわかり、勇気づけられました。
- ◇ 他校の事業内容、方法が生の声となって聴くことができ、とても参考になりました。
- ◇ 学校によって支援の内容が違い、それぞれが忙しいなか、子どもたちの為に努力しているお話が聞けて良かった。うちでは土曜日学校でやっている行事を授業でやっている学校もあり、今後の活動を考える機会となりました。

学校と、学校支援地域本部の情報交換会の効果～参加者からの振り返りシートより～

教員より

- ◇ 本日の話題にもありましたが、正直な所、学校支援本部にどんなことを学校からお願いしたり、支援していただいたりすることができるのかが、よく分かっていませんでした。本日の学習会で他校の実践などを聞くことができ、上記のことについて理解を深めることができました。機会を見つけて、お互いの連携・協働に対する思いを本日のように話し合える場や時間を取っていく事も必要だと思いますので、そのように進めていけるように学校に戻って話したいと思います。
- ◇ 日頃なかなか学校支援本部の方々と教職員との交流を図る機会がないので、大変充実した会でした。もっと活用できるように方策を考えていきたいと考えるきっかけになりました。まずは教職員が、学校支援本部そのものの理解を深めることだと思います。そして様々な学校を支援してくださる他の組織とのすみ分けを明確にし、活用することです。さらに管理職が窓口になる事を一本化せず、一般職員の中にも例えば「地域主任」の様なポストを設け、より協働していけると良いと思います。
- ◇ 他校がどのように支援本部を活用し、活かしているかを知ることができてとても参考になりました。情報の共有（支援してほしいという情報・支援出来るという情報）をしていきたいと思いました。学校支援本部がどんなところで何をしているのかを知らない先生が学校にはたくさんいます。まずは存在を知らしめることが必要ではないかと考えました。

学校支援地域本部関係者より

- ◇ 各校の活動内容が分かり、自校支援本部に足りないものが分かりました。教科との関わりが少ない支援本部だったのでどのようにしていくのがよいか、特に来年度の職場体験については、学校支援本部内で相談して、協力したいと思います。
- ◇ 学校（先生方）の考え方が分かったのでとてもよかったです。これからの活動がしやすくなりました。他校の取り組みも直接話が聞けたので良かったです。
- ◇ まず、教師が各学校1名ずついらっしゃって、一緒にお話をできる場があるという驚きです。大変、貴重なお話し、ご意見をうかがうことができました。各校の活動内容については大変参考になり、自分たちのこれからの活動に活かせたらいいと思います。

⑤育成プログラム実施後の検証からの考察

以上の結果から、地域コーディネーター育成ガイドラインの開発は、以下のような内容において行うべきと考えた。

地域コーディネーター育成研修会の内容は以下の通りとする

- * 学校教育支援の基礎的知識の理解
- * 地域コーディネーターの役割と業務の理解
- * 学校・児童生徒の現状の理解
- * 学校・地域のネットワークづくり
- * 学校教育プログラム開発支援の方法の理解
- * プロジェクトマネジメントについて

研修会以外に、情報共有の場の設定することが必要

- * 学校支援地域本部同士の情報共有の場
- * 学校と学校支援地域本部との情報共有の場

杉並区においては学校支援地域本部の設立過程の関係でAコース・Bコースという2部制での実施としたが、全国ベースで考えた場合はひとつのコース設定を基本とし、地域性により内容を検討してもらおうということを想定しプログラム化する。

【3】地域コーディネーター育成ガイドラインの作成

①地域コーディネーターの定義

ガイドライン作成にあたって、平成19年度よりコーディネーター対象の養成事業として「コーディネーターミーティング」を企画・運営している「東京都地域教育推進ネットワーク東京都協議会」にヒアリングを行った。ここでは、「学校支援ボランティア推進協議会事業」（東京都における学校支援地域本部事業の名称）推進の課題として、以下の3点が浮き彫りにされていた。

*事業の主旨が理解されているのか

事業の主旨が理解されていないことによる、市区町村における地域コーディネーターの選出基準や方法の不明瞭化。

*地域コーディネーターの役割が正しく理解され、適任者が選ばれているのか

コーディネーター・ゲスト講師・サポーター等、様々な役割が必要とされている学校支援活動で、各々適任者がその役割を担っているのか。

*コーディネーター育成のために提供してきた研修プログラムが整理されているか

学校支援地域本部活動地域の地域的な現状に合わせた研修の提供を行うことができるのか。

そこで、本ガイドラインの作成にあたっては、地域コーディネーターを始めとして、学校支援に関わる様々な「人材の定義化」を行った。各地域によりその名称は様々であると考えられるが、概ね理解されるであろう名称を想定して定義している。

「学校支援地域本部」とは

「学校支援地域本部」は、学校の教育活動を支援するため、地域住民の「学校支援ボランティアサポーター」・「学校支援ボランティアゲスト講師」（以下ボランティアと記す）などへの参加をコーディネートするもので、いわば“地域につくられた学校の応援団”である。学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校教育支援（教育課程内支援及び教育課程外支援）を行い、教育の充実を図り、社会総がかりの教育の実施として展開される。

「本部役員」とは

「本部役員」は、本部の代表となるとともに、円滑な活動にあたり、運営方針を考える等を執り行う。

「地域コーディネーター」とは

「地域コーディネーター」は、学校教育活動（教育課程内支援・教育課程外支援）への教育支援人材や教育プログラムの導入にあたり、学校と教育支援人材、あるいは教育支援人材間の連絡調整などを行い、実質的な運営を担う地域人材である。地域の実情により、複数の地域コーディネーターでこれを担う。

また、その業務を行うに当たり、子どもたちや学校の状況、ニーズ把握を頻繁に行い、学校教育活動の内容を熟知した学校のよき理解者であるとともに、地域に精通していることも求められる。

「事務担当者」とは

「事務担当者」とは、学校支援地域本部の活動において必要となる書類等の作成、会計処理、広報活動等を行い、事務的な面から学校支援地域本部の活動を支える地域人材である。

「学校支援ボランティアサポーター」とは

「学校支援ボランティアサポーター」とは、学校管理下の活動において、授業補助・学習支援活動、部活動支援、学校図書館・読書活動推進支援、環境整備活動支援、安全管理活動支援、行事支援など、様々な学校のニーズに応じて学校や子どもたちを支援する地域の教育支援人材である。ある程度の専門性が必要なものから、特段の資格や経験等がなくてもできるものまで幅があるが、ボランティア一人一人が学校の仕組みや教育方針等をよく理解した上で、子どもの教育に意欲と関心を持って主体的に参加することが求められる。

「ボランティアゲスト講師」とは

「ボランティアゲスト講師」とは、その専門的な知識・技能・技術、培ってきた経験等をもって学校授業において教師と連携して授業を進める地域の教育支援人材である。子どもたちにとってより専門的な内容、現実的な視野を持たせるため、授業のねらいや学校のニーズをよく理解して授業を支援することが求められる。

「地域教育協議会」とは

「地域教育協議会」は、学校支援地域本部においてどのような支援を行っていくかといった方針などについて企画、立案を行う検討の場である。その構成員は、各地域の現状を踏まえて考えるが、学校と学校地域支援本部の連携活動を円滑に進め、子どもの教育環境の充実に向けて話し合うことが求められる。

②地域コーディネーターの機能

地域コーディネーターがどのような機能を有しているのかについては、地域コーディネーターの業務を以下の通り想定し、整理していった。

地域コーディネーターの業務	地域コーディネーターの機能	
各地域における地域資源の把握	学校教育支援に必要な地域資源の発掘と、地域との円滑な関係づくりによる、地域ネットワークの構築・維持。	教育支援プロジェクトの運営管理・連絡・調整
学校ニーズの把握	子どもたちの発達の段階に応じた学びに役立ち、学校と地域の交流・連携が推進されるような教育活動の企画や提案とその実施支援。	
学校ニーズを受けた教育プログラム案の開発		
開発した教育プログラム案の提案		
学校や児童生徒の実態に即した教育プログラム案への改良		
教育プログラムの実施に当たっての学校との調整		
教育プログラムの実施に当たっての教育支援人材との調整		
教育プログラム実施までのその他の調整と進行管理		
教育プログラム実施当日の支援		
教育プログラムの効果測定支援		
教育プログラム実施後の振り返り・フォローアップ		
協力者へのお礼、実施記録・報告書等のまとめ		
次回に向けての改善支援		

③育成にあたっての留意点等

参加型研修の実施推奨

育成にあたっては、全国各地へのノウハウ移転をめざすために、各地域の連携状況、学校支援地域本部の状況が異なっていることから、その地域に合った研修内容を抽出して実施することができるようにした。

また、知識習得の講義形式だけでは、実践活動が主体となる地域コーディネーターの技能が向上しないため、ワークショップ等の参加型研修を取り入れたところ、高評を得られたため、参加型研修の実施推奨をしている。

参加型研修は、インプットした知識を生かして自らが考えることができ、より理解が深まるとともに、グループワークをすることで、同グループメンバーからの意見や

経験を共有することで、さらに広がった視野をもつことができる。

各学校支援地域本部に複数の地域コーディネーターの育成を

地域コーディネーターの成り手が見つからない等の理由で、学校支援地域本部内でひとりの地域コーディネーターが頑張っている場合も多々見られる。しかし、チームにより活動を進めることが、地域コーディネーターのスキルアップにもつながり、それが学校教育のさらなる充実につながるということが、参加者からの振り返りシートの記述等からも多く示された。

複数の地域コーディネーターの育成ができるように進めることが必要である。

参加型研修による効果～参加者からの振り返りシートより～

- ◇ 今日のテーマはプログラム開発でした。プログラム開発には、想像力と引き出しの多さが重要だと感じました。他校の同じグループの方々の考えを聞き、ディスカッションすることで自分一人では気づかなかったこと、新しい視点の発見があり、とても刺激を受けました。
- ◇ 「学校支援」という一つの思いで集まった皆さんの知恵は素晴らしく、どれも参考になるものばかりでした。一つのテーブルでも素晴らしい知恵が集まりました。
- ◇ 私の場合、校内でコーディネーターをしているのが一人だけなので、いつも学校で単独であり、自分の頭のネットワークだけで考え、行動しているので、同じ卓に座った5人で話し合うとどんどんアイデアが出てきて膨らんでいくので力を得た感がありました。他校の方とお話をする、各学校でのノウハウやスキルが新たにわかり、学びが多かったです。
- ◇ 内容の濃い充実した研修会で、持ち帰れることがたくさんありました。「身の回りにある学校支援情報を集めよう」のワークショップでは、他校のコーディネーターの方と情報交換が活発にでき、とても有意義でした。自分自身の活動を振り返ることもできました。常にアンテナを張って、ネットワークを共有し、広げていく事で地域コーディネーターの方と活動が楽しくなっていく事を実感しました。
- ◇ 出席回数を重ねていく事により、コーディネーターとして活動していく事の大切さを実感しています。ワークショップによって具体的な活動の仕方が分かりました。他校の方々と意見交換をすることにより、多くの情報を得ることができました。とはいえ、コーディネートするセンスが問われる活動に頭

を悩ませられます。仲間がいることを実感しました。

☆ 初心者である私にとって、とても刺激を受けるワークでした。濃い内容だったと思います。ネットワークの持ち方～保ち方。教育委員会の方々、また区
の他部署の方々に協力を得ること、さらに町会・商店街との継続的・長期的
な協力を得るためにコミュニケーションをとっていくこと。

授業には流れが必要だということ、地域の方々の理解～協力を得るまでの方
法、先生方との協力・話し合いをどう進めていくか等。様々な面からコーデ
ィネーターとしてどう考え、授業を組み立てていくか、一つ一つ自分の頭を
使いながら順序立てて学ばせていただき感謝です。まだまだ学ばなくてはな
らないことがあります。ここでお知り合いになれた皆様とつながりを大切に
今後もアドバイス・ご指導いただけるよう活動したいと思いました。

④「地域コーディネーター育成『情報共有・参加型研修ガイドライン』」の開発

地域コーディネーター育成のための研修内容については、「地域コーディネーターが有す
る3つの機能」に基づき、「身に付けることが求められる6つの基礎的知識・技能」により、
「15項目の研修項目」に分けて作成した。

各地域の研修時間や講師等の関係により、項目を抽出して実施することができるように
工夫をしている。(本書は添付資料1参照)

地域コーディネーター育成のための「研修内容」構成案

地域コーディネーターの機能	身につけることが求められる基礎的知識・技能	項目	研修参加者の目標	
学校教育支援に必要な地域資源の発掘と、地域との円滑な関係づくりによる地域ネットワークの構築・維持。	学校教育支援の基礎的知識	1. 学校支援地域本部とは。	学校支援地域本部が担うべき役割について理解する。	
		2. 子どもたちが抱える課題の理解と、その解決方法。	社会状況の変化や児童生徒を取り巻く環境の実態を踏まえ、学校・地域・家庭の連携が必要となっている現状について理解する。	
		3. 学校が地域と連携することによる効果。	地域が学校の教育活動を支援することで期待される効果について理解する。	
	地域コーディネーターの役割と業務の理解	4. 地域コーディネーターとは。	地域コーディネーターが担う役割や学校支援地域本部内における役割分担について理解する。	
		5. 地域コーディネーターの機能と業務。	地域コーディネーターの機能と業務について理解する。	
		6. 地域コーディネーターが身につけるべき基礎的知識と技能。	地域コーディネーターとして活動していく上で必要な基礎的知識と技能について理解する。	
子どもたちの発達の段階に応じた学びに役立ち、学校と地域の交流・連携が推進されるような教育活動の企画や提案とその実施支援。	学校・児童生徒の現状理解	7. 学校組織と教職員の職務の現状。	教職員との良好な関係を構築するために、学校運営や教職員の職務内容についての概要を理解する。	
		8. 児童生徒の発達の段階と現状。	児童生徒の発達の段階に関する基礎知識や、現代の児童生徒の実態を理解し、地域コーディネーターが活動を進める上で配慮すべき事項への視点をもつ。	
	学校・地域とのネットワークづくり	9. 地域の教育資源を知る。	地域における教育資源への視野を広げ、ネットワーク構築が必要であることを理解する。	
		10. 地域とのつながりを持つためにすべきこと。	地域の教育支援人材とのつながりを持つための方法を考える。	
	学校教育プログラム開発支援の方法の理解	11. 教育課程支援の在り方。	学校の授業は、学習指導要領に基づき成り立っていることを理解し、教育課程支援においては学校・教育支援人材との綿密な相互理解を基に運営する必要があることを理解する。	
		12. 事例研究。	児童生徒の発達の段階、活用できる教育資源やはぐくみたい力の違いなどにより、効果的な学習方法を検討する必要があることを理解する。	
		13. プログラム開発の方法。	教育プログラム開発の方法について具体的に理解する。	
	教育支援プロジェクトの運営管理・連絡・調整	プロジェクトマネジメント	14. プロジェクトマネジメントとは。	教育支援プロジェクト全体を俯瞰し、その立ち上げから計画、実行、効果測定までのプロセスをマネジメントするための基礎的知識を理解する。
			15. 教育支援プロジェクトをマネジメントするために必要なこと。	地域コーディネーターに特有のプロジェクトマネジメントのポイントを理解する。

【4】地域コーディネーター育成教材の開発

地域コーディネーター育成ガイドラインに基づき、育成研修を実施するために必要な教材の開発を以下の通り行った。

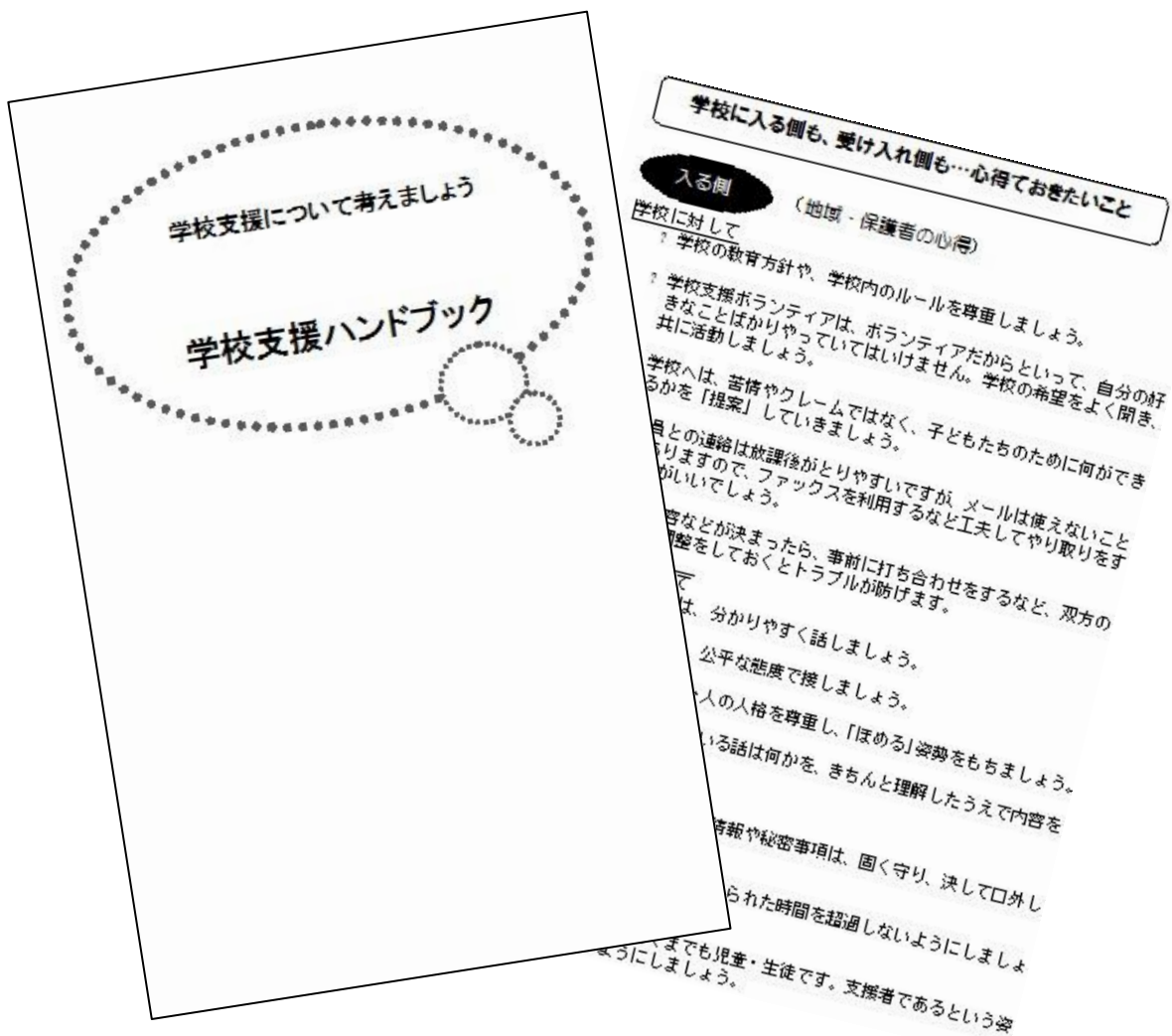
学校支援ハンドブック

地域コーディネーター育成テキスト

①学校支援ハンドブック

学校支援にあたっての心得等をまとめた冊子を開発した。地域コーディネーターが使用するだけでなく、学校に入るに当たって、教育支援人材にも周知させておきたい内容を記載している。

(本書は添付資料2参照)

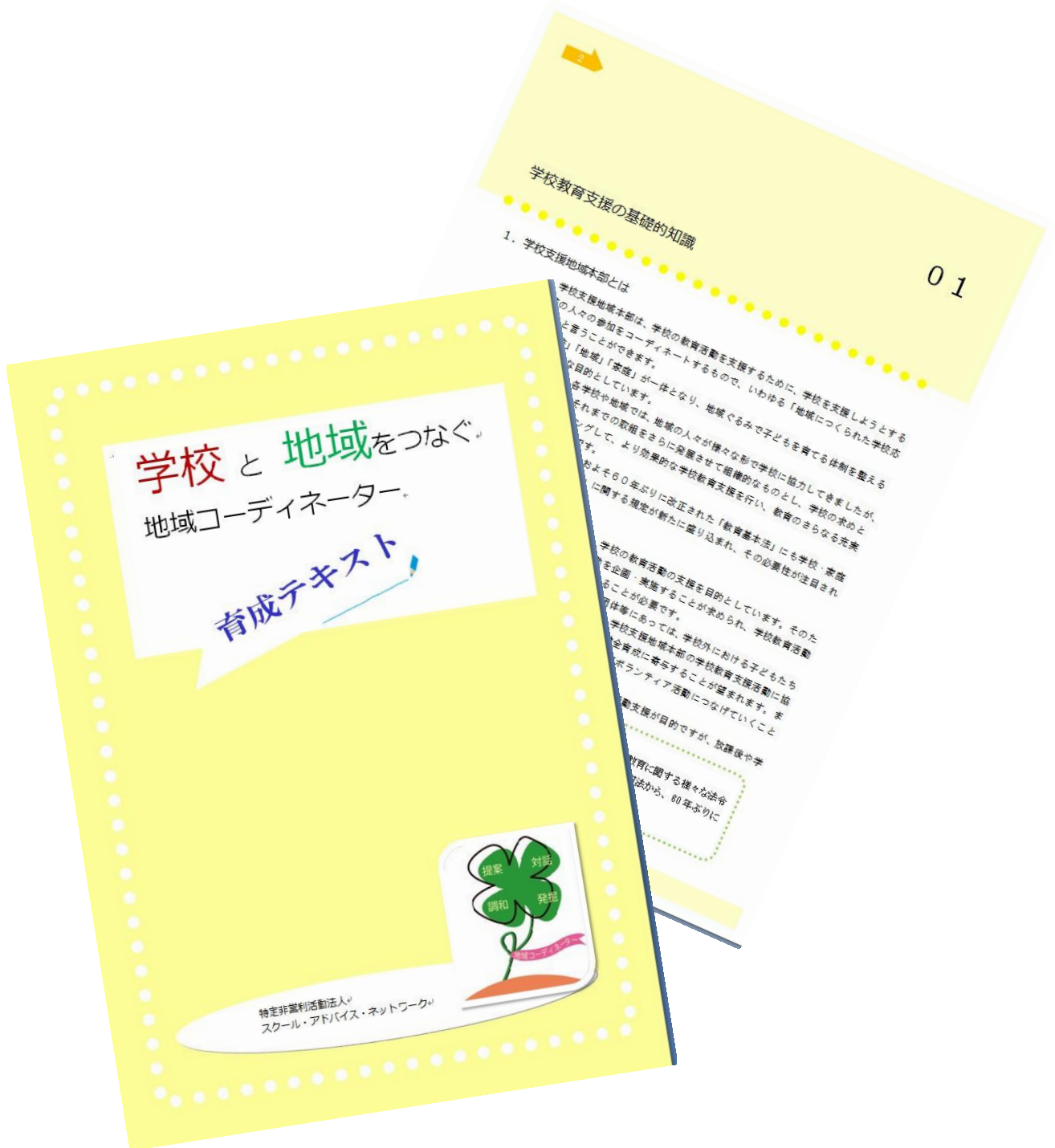


②地域コーディネーター育成テキスト

地域コーディネーター育成ガイドラインに基づき、研修会運営において必要となる基礎的知識を教材化したテキストを開発した。

本テキストはウェブ上での閲覧として開発している。

(本書は添付資料3参照)



5 地域教育プラットフォーム構築にむけて

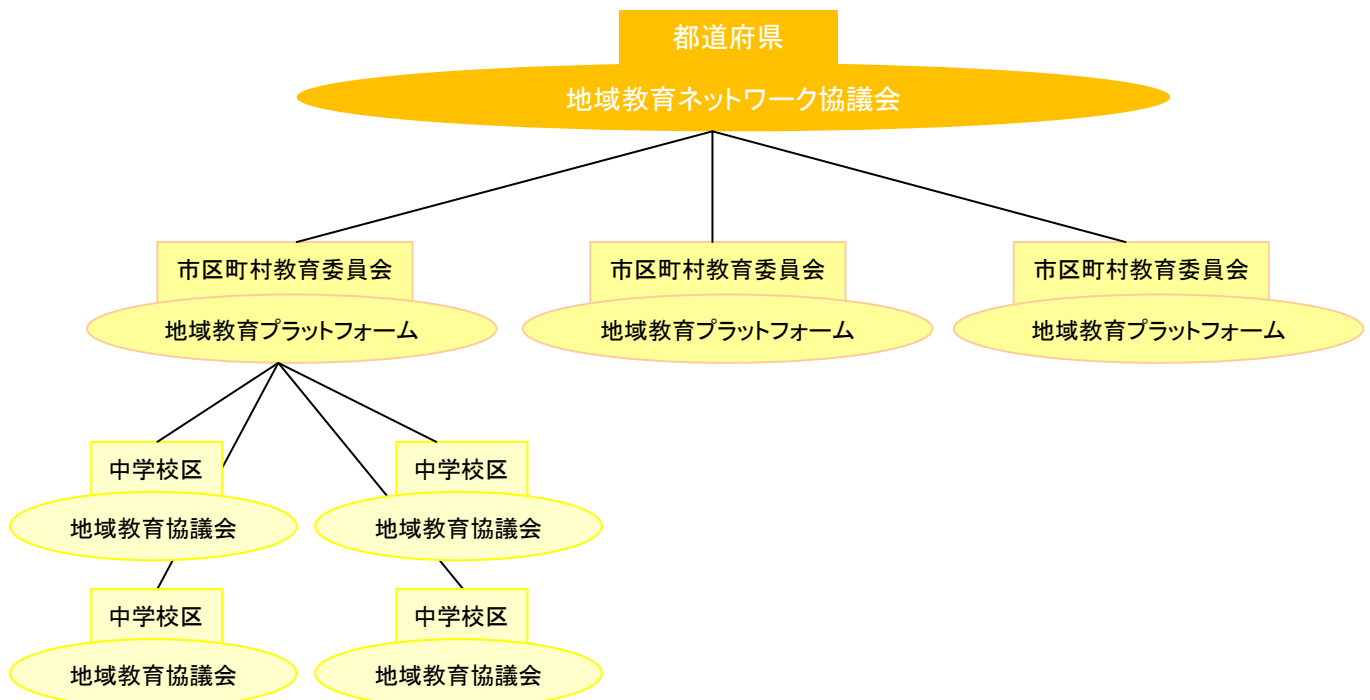
学校支援地域本部は、地域を少しずつ巻き込みながら地域教育のネットワークをつくっていき、学校教育を支援していくことを目指している。活動を円滑に、持続的に進めていくためには、緊密な地域連携体制の構築が必要となり、息の長い取組となる。

また、この取組を着実に進めていく学校支援地域本部の実践活動の担い手となる、地域コーディネーターは、活動推進のキーパーソンになると言っても過言ではない。いかに育成し、力をつけていくことができるかということ、また、その活動をバックアップしていける機能が充実しているかということが課題となる。

地域教育プラットフォームは、各学校支援地域本部がよりコーディネート力をつけるための機能、またより多くの教育資源を巻き込んでいけるかというネットワーク構築機能を有している。

本プロジェクトは、都道府県ベースの地域教育ネットワーク協議会や、市区町村ベースの地域教育プラットフォームの構築を想定して進めてきた。つまり、都道府県ベースにおいては、学校支援地域本部を推進する「面」（市区町村）を広げていくことを主として進め、市区町村ベースにおいては「点」（各学校支援地域本部）を深めていくことを主として進めることを想定しているということである。

学校教育への地域力の注入は、今後一層の広がりや深まりを見せて進んでいかなければならない課題であり、都道府県ベースと市区町村ベースがともにその役割を明確にしながら、連携をして推進していくことが期待される。



また、地域教育プラットフォームを構築していくためには、地域コーディネーターが軸となり、地域との「対話」、地域教育資源の「発掘」、それらと「調和」をし、そして地域連携への「提案」をしていく。そのことを繰り返し行うことにより連携の「渦」が少しずつ大きくなっていく。そして、地域ごとに緩やかな地域教育ネットワークがつくられ、そこから市区町村、都道府県、全国へと拡大していく。

子どもたちの育成を、全ての人々が当事者意識をもって担っていく世の中になるように、さらに活動を進めていきたい。



6 まとめと今後に向けて

本プロジェクトにおいて作成した「地域コーディネーター育成ガイドライン」は、その特色を「情報共有・参加型」育成ガイドラインとした。

これは、前述報告書内に記載した通り、研修会の運営を、講義型のみならず、インプットした知識を自分の頭の中でまとめなおし、それをもとに他の参加者とディスカッションすることにより、一層深く考えることができるという「参加型」にすること、また、同じベクトルに向かう者同士が情報交換や交流をしながら「情報共有」をすることが重要だと考えたからである。

実証の場として協力してくださった杉並区小中学校支援本部地域コーディネーター研修会の参加者の声をまとめ、その「型」を築いてきた。

これを基に研修を進める一方、一定の活動基盤ができた学校支援地域本部・地域コーディネーターに対しては、さらに「持続可能な学校支援地域本部づくり」への啓発と構築のデザインができるような研修も必要になってくるであろう。

